

◆ 杉並都税事務所長賞 ◆

「増税せずに税収を増やすために、私たちができること」

日本大学第二中学校 3年 小久保 咲希

日本の税収の増加は、私たちにとって多くのメリットがあり、重要な課題である。税収を増やすには様々な方法が考えられるが、単純な増税よりも経済の活性化による税収の増加が望ましい。では、経済の活性化のために私たちにできることを考えてみよう。

私はこれについて二つのアイデアがある。一つ目は消費活動の促進である。例えば消費税率を一定の期間引き下げたり、企業へ減税措置をとったりして消費者の購買意欲や企業の投資意欲を高めることができる。私たちがたくさんのものである。消費活動の促進につながると考える。しかしこの方法は、一時的な効果しか期待できない場合もある。

そこで長期的、持続的な経済成長を実現するために二つ目の外部からの資金を集めること、つまりインバウンド観光の振興が重要になる。インバウンドとは、外国人が訪れてくる旅行のことを指す。インバウンド観光の振興によって観光地の活性化や地域経済の発展につながり、観光客の消費が増えればもちろんそれに伴う税収も増加するだろう。

では、観光客を増やすために私たちにできることを考える。私は小学生の時カナダを訪れた。その時の私は全く英語が読めず、案内板やカフェでのメニューを理解できなかった。この経験から、案内板やメニューを多言語化し、母国語以外の言語も話すことができるスタッフを配置することが今後求められると思う。さらに SNS を活用し、観光客の興味を引く体験型観光プログラムや SNS 映えするスポットの開発、紹介が重要だと考える。これらの取り組みによって観光客が日本に対してポジティブな印象を持ち、また訪れたいと思うような環境づくりができる。

私自身もこのインバウンド観光の振興に貢献したいと考えている。具体的には観光客に対して英語で案内を行ったり、観光客の興味を引くスポットを紹介したりすることで、彼らがより日本を楽しめるようなサポートをしたいと思う。また人気の観光地だけでなく、地元の隠れた名所や文化体験を案内することで深い感動を与え、再訪の意欲を高めることができるだろう。そして上手く SNS を活用し、観光地の魅力を発信することが重要である。観光客が訪れた場所を投稿し、それを見た新しい観光客を呼び込むという好循環が生まれる。

このように、インバウンド観光の振興は日本の経済を活性化させ、税収を増やすための重要な手段となる。観光客の日本での活発な消費活動は地域経済が潤うだけでなく、国の税収増加にもつながる。私も積極的にこの活動に参加し、日本の魅力を世界に伝えることで、日本の経済発展に貢献したいと考える。